

UTM グリッド入りの英語表記登山地図—国内地形図を国際基準に—

任意団体「HokkaidoWilds.org」 代表 トムソン・ロバート

キーワード

UTM グリッド、地形図、登山地図、英語表記、QGIS

想像してもらいたい。あなたは日本人の仲間と一緒に、中央オーストラリアの人里離れたシンプソン砂漠で、ウルル（エアズロック）付近で3泊4日のトレッキングをしている。二人ともトレッキングの経験者で、ガイドはいない。3日目だけど、トレイルですれ違った人はこの3日間一人だけ。突然、友達が毒蛇にかまれ、行動不能となった。携帯の電波が届かない場所にいるが、幸いなことに無線を携帯していて、高台から何とかして20km離れたレンジャーと連絡が取れた。英語が万能な仲間は蛇の毒で意識が朦朧としている。自分はせいぜい「ハロー」しか英語できない。ちょっとピンチだ。「ヘルプミー」と慌てて無線の受話器にせき込んで話す。「You ne.. help mate? Where ..re you?」と、レンジャーが場所を尋ねるが、距離で声がちぎれてしまう。あなたは登山の経験者だからGPSを携帯しているし、事前に目標地の緯度経度座標をノートにメモっていた。GPSで現在地の緯度経度の座標を確認して、座標の-24.2855359,131.570705をレンジャーに「ナウ、マイナストウェンティーフォードットツエイトファイブファイブスリーファイブナイン、ワンツリーワンドットファイブセブンゼロセブンゼロファイブにいます！あっ、アイアムヒア」と、慌てながら伝える。「What? Where? You're...break...up...」とレンジャーが。俺の英語の発音はやっぱダメだし、回線がちぎる。ヤバッ！「Tell me a place name」と、レンジャーが周りの地名を求める。手元の地図を見ると近くに「Tjintjit Tjintjit Spur」しかない。いったいどう発音するんだろう？あなたは無線で何度も発音を試すが、レンジャーに理解してもらえない。次にレンジャーが「What's your grid reference?」と尋ねる。え？何十年も登山をしているのに、グリッドレフェレンスは初耳だ。オーストラリア特有の変な位置情報システムなのかな？ヤバイ、日が暮れる。大ピンチだ。

実はこの場面で、わずか6桁のUTM座標（grid reference）を伝えたら、レンジャーが遭難者の場所をすぐ100mの精度で特定できる¹。また、これはけしてオーストラリア特有の位置情報システムではない。1940年代に米国でユニバーサル横メルカトル図法（UTM）が開発され、それ以来欧米などのほとんどの先進国では軍、政府、民間問わず、位置情報を伝えるための不可欠なツールとなっている。スマホなどGPS受信機が埋め込まれている現在でも、海外のほとんどの市販地形図にUTMグリッドが掲載されており、今でもボーイスカウトからプロガイド、防災危機管理機関の職員などは必ずUTMグリッド座標が利用できる現状である。だれでも、どの地図を持っていたとしても、標準のUTMグリッドに参照し、第三者に素早く位置が伝えられる。こうした世界基準に合わせるため、任意団体「HokkaidoWilds.org」がネット上で無償提供しているPDF版の英語表記地形図²に、2021年7月からUTMグリッドを導入している。コロナ禍終息後も訪日外国人訪問者（特に欧米豪新のアドベンチャータラベラー）が増加するため、言語に頼らない位置特定方法が既に不可欠になっている。ただし、HokkaidoWilds.orgのこうした取り組みに大きな壁がある。先進国で唯一UTMグリッドが防衛以外に普及されていないのは日本である。国土強靱化推進室や国土地理院等がその普及に努めているが標準化に至っていない。したがって、訪日する英語話者がHokkaidoWilds.orgの英語表記地形図掲載のUTM座標を使って他の日本人登山者、捜索隊、ガイドなどに位置を伝えようとしても無駄で、上記の場面のように、桁数の多いGPS座標、読みにくく発音しにくい日本語地名、あるいは英語で周りの地形を説明するような回りくどい説明方法しかない。国内でこれまで防災利用に推奨されたUTMグリッドは日本の国際化の重要な要素でもあると本団体が考えるため、外国人登山者の安全を念頭に置きながら少しでもUTMグリッドの普及を加速しようと、本団体が作成する登山用地形図を世界基準に合わせてUTMグリッドの掲載に至った。

¹ 今回のUTM座標は645088（このPDF地図に参照：<https://hokw.jp/UTMEx>）² 地図は国土地理院基盤地図情報を活用しQGISで作成。2019年度Geoアクティビティコンテストで紹介し、電子国土省や来場者賞を受賞。※謝辞：（一社）UTMグリッド推進センターの校正協力に感謝。